令和７年１２月　「はこでみ親の会」

第 36 回はこでみ親の会を開催しました。

今回の親の会の中で話題に上がったのは、我が子の不登校を経験した際の親の心境の変化です。

年々、不登校の数が増加している事は皆さんも御存知だと思います。しかし、実際に我が子が不登校になるのとならないのでは、家庭の状況や家族の心境は大きく違います。

今回の親の会に参加されたお母様は、どちらも我が子の不登校を経験されています。かく言う私も現在、小学生の息子が不登校であり、数年前は娘も不登校でした。

私自身は支援者として不登校についてのご相談をたくさん聞いてきました。しかし、平日の午前中に子どもが自宅に居るあの何とも言えない違和感は、実際に経験しないと分からないものでした。

今回ご参加のお母様と私の、我が子の不登校を目の当たりにした初期の頃の心境の共通点は、「焦り」でした。自宅で好きなことをして過ごす我が子の状況と同時進行で学校で授業を受けて過ごしている子ども達の状況の差を感じずにはいられませんでした。

勉強、運動、栄養、掃除、仲間、役割、ルール、成功、失敗、評価、自信など満遍なく取り揃っている学校での経験を我が子は今正に受けていない。日ごとにマイナスが増えているような気がしてなりませんでした。

しかし、上記のような「焦り」は、不登校になったことがない親自身の経験に基づくものであり、我が子の気持ちを反映したものではないことに徐々に気づいていきました。

自宅での我が子の笑顔や本人なりに考え抜いた言動に不登校だから得られた多くの時間を使って直接触れる事で、大人側の心境や常識が変化していきました。

「大人の焦りや一方的な常識では子どもは動けない。結局は子どもが決めていく。子どもの心と体が動く方に進んでいく。それまでに何年かかるかは分からない。親は子どもを信じる強い気持ちを持って根気よく一緒に過ごしていく。」

文章に書くのは簡単で、現実は様々な感情が入り混じりこんなに単純ではありませんが、今回ご参加のお母様達と私は、我が子の不登校によって上記のような気持ちになり、我が子への関わり方や常識の捉え方が大きく変わった事は確かです。

不登校は千差万別であり、特効薬はありません。何が正解かも分かりません。私自身今後息子がどうなるか分かりません。しかし不登校は増え続けています。

だからこそ、はこでみ親の会は、これからも子ども達そして保護者の方の味方として、一緒に考え気持ちを共有することを続けていきます。

そんな決意を強くした今回の親の会でした!